


IPad 事例カード 様式

アプリ名	Keynote
教科・領域	自立活動
学習形態	<p>集団（10人程度） ペア 個別</p> <p>※できれば子ども一人または二人に対し，一人の教師が支援することができる。とよい。</p> <p>※生徒同士のペアでも可能。</p> <p>（例） 高等部生徒と小学部児童， stage I と stage V の生徒等</p>
太田ステージ段階	I ～
	
<p>①ポーンと音，映像 「ウォーキング」</p> <p>②ポーンと音，画像 が変わる</p> <p>③「リラックス」</p>	
1 アプリの紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ keynote はプレゼンテーションソフト。写真やビデオを挿入したり，そこに反射や飾り枠を追加するなど，簡単な操作でプレゼンテーションの制作ができる。1枚1枚のスライドに動き（アニメーション）を加える機能が充実しているのが特徴。 ・ S@Smovement は，イギリスのサンフィールド校で開発された自閉症児者に特化したシェルポーンムーブメント。この動きを Keynote に挿入し，作成した。
2 使い方	<p>① iPad の Keynote を立ち上げる。</p> <p>② 「記録したスライドショーを再生」を選ぶ。</p> <p>③ スタートする。</p> <p>※各セッションを大型モニター等に写して，今何を行うのかが分かるようにする。画面に注目できるようにセッションの切り替わりに「ポーン」と音をつけた。</p> <p>・ 26分程度で1つの活動が終了。自動再生。</p>
3 おすすめポイント ・ どんな力がつくか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画面を反転させているので見やすい。 ・ ムーブメントにより人間関係の基本的な部分であるアタッチメントの形成をねらった。